アンネ・フランク　パネル展実施報告

東京学芸大学国際教育センター　吉谷武志
東京都立一橋高校　角田　仁

１．パネル展実施の概要

開催期間：2015 年 11 月 4 日(水)～11 月 24 日(火)　9:00～20:00
場　　所：東京都立一橋高校
共同開催：東京学芸大学国際教育センター、東京都立一橋高校

２．パネル展に関連した取り組み

パネル展開催に合わせて、報告者が一橋高校第 1 学年 4 学級を対象に「現代に生きるアンネ・フランク―異文化理解と偏見を学ぶ―」の授業を各 4 時間、都合 16 時間、実施した。

授業では、アンネ・フランクのパネルを元に、まず当時の社会状況とアンネ・フランクたちの身に降りかかった差別と迫害を学んだ。さらに、こうした迫害と差別が、当時の人々にとってどのように受け止められたのかを考え、ディスカッションを行った。その上で、アンネ・フランクや家族、さらに当時のユダヤ人に対して行われた迫害が、現在の社会においても決して無縁のものではないことを、現在の社会に目を向けて考え、ディスカッションを行った。

３．授業の受講者の感想

展示に対して、一橋高校の他の教諭が生徒にパネルについての感想を提出するという課題を出してくださった。その中の一部について報告する。

・人種差別法は「ドイツの血統」を持つドイツ人のみが完全な市民権を得られるという法律だそうですが、おかしな話です。人はアフリカの一部のサルが進化し世界中に広がっていたものなのですから。人種の差は二次的な環境によって（温度・湿度）の差だと思う。
・「私たちの生活は不安と隣り合わせだった」と書いてあって、いつ自分が死ぬか分からない状況がずっと続くなんて本当に辛かっただろうなと思いました。逃げても、逃げても逃げられない、そんなの、私には耐えられません。意味はちがうのですが、今日本や世界でテロ事件が起きていて、不安と隣り合わせという意味が一緒だなと思った。
・私達は物音を立てずに生活することも、おびえて暮らすこともなく平和にすごしているから正直アンネがどれだけ怖かったかははっきりとはわからない。だけどトイレすらも水を流さないようにして窓もブランケット覆ってとかそん

な気をつけて生活しなければならないのは想像しただけで息苦しい。そんな中過ごしたアンネたちはすごいと思った。
・アンネ・フランクについて初めて知った。授業やパネルを見て、とても悲惨なものなんだなと実感した。中でも２４番のパネルは、他のパネルより驚きをかくせなかた。人生の中のこの短い期間でこのようなことがたくさんおこってしまうのかなと思った。

４．その他

学校内(3部制)での展示でしたので、多くの在校生が展示を見てくれました。すべての生徒が感想を出してくれたわけではないのですが、真剣にみてくれたようです。

５．写真